



←フロントは8Jx19インチ+32。Aディスク(スタンダード)を選択。インセット的に前が深くなってしまふところをリア側のリム深度(約55mm)に合わせている。これぞプロの技!



←リアは8Jx19インチ+44。Oディスク(デイズリム)にて、ディスクはグノース伝統のブラッシュド、リムは光輝感のあるパワフィニッシュ。タイヤサイズは前後とも225/35

SIZE&PRICE
GNOSIS CVX
7.5Jx19インチ¥75,000+税
~12.5Jx21インチ¥144,000+税
カラー:マッドブラック、マッドシルバー、
ブラック、コンボジットマッドブラック、
パワフィニッシュ



↑サブスポーク内側のH字ラインには38箇所のアルがつけられ、この絶妙な傾斜変化がヒネリ感を強調する



↑スポークエンドのアンダー部をエグリ込み、その映り込みの妙味をもデザインの一部分としている



↑2x5フォーマットに、斜めに出したサブスポークを加えヒネリ感を創出。ラフメッシュの唇部突出を宿す



←車高調にはXYZを採用。ロード＆ブラックアウトのみで最速減速シミュレーション。CVX19インチがよく映える

意味でまったくブレしていない。
今回の作品は、ワークホイール×イタファ、を熱烈に仕掛けているプロシヨップマッキナーの手によるもので、2ピース特有のディスクバリエーションやオーダーインセットを使っただけで、前後ツイッチを起点に、前後とも同じリム深度で美しく纏えられている。プロの手腕で、自分だけのベストセッが完璧に設えられること、そんなマニアックさもまた、グノースがつと通じかけの掛け替えのない、意味だ。

WORK GNOSIS CVX

× PEUGEOT308 Macchina

グノース最新作を
プジョーに合わせる。

最初は異端だった。が、世界基準のトレンドを汲み、セッティングの妙に迫り、テクノロジーで最新を行ったグノースは、いまやインプカーの定番だ。
最新モデルCVXとアショー-308。大正解のコラボレーション、ご覧あれ!

問●ワーク TEL.06-6746-2859 www.work-wheels.co.jp
撮影協力●マッキナー TEL.072-446-9733 www.mpcchina-style.com
撮影協力●車道交差センター(保良会)
写真●松田洋介 文●泉純紀行



前後のリム深度を合わせた
美的セッティングに注目!

グノースCVXが好調だ。グノースといえば、スベック的にもデザイン的にも欧州車とのマッチングに特化したシリウスとして、人気も実績も十分に兼ね備えたワークの主力。自分の車高に合わせたツラ出しが叶えられるオーダーインセットをいち早く導入・確立し、フィニッシュでも最先端を常に提案するなど、グノースがもたらしたスタイルアップ界への功績やトレンドはたくさんあって、ブラッシュドという言葉が一般的になっただけのも、じつはグノース以上に、と思っている。
そして今年、最新モデルCVXを背負うのもグノースの役目。このCVXでは、アメ職の洗練とさせる同ブランドならではのエッジイニディテールはそのままに、コンケイプ+ヒネリのエッセンスが加えられたことが最大の特長となる。が、面白いことに、造形の複雑さゆえの引力を感じさせながらも、実際には2x5の正確なスポーク配列に、体への姿勢のように斜めに足を出したサブスポーク一本でもよいことヒネリ感を出して、着地点は意外とベーシック。それは、まさに今のカーデザイナーの考え方のものを完全に汲み長が合っている、デモカーのグノース1308に対して、もう一層漆こような似合い方をしている。ホイールだけが際立ちすぎない、スタイルアップの、間合い、みたいなところにちよるとよく映える一本であることも、グノースがつと通じかけてきたテーマであり、CVXもその